

とある一族と建築家と村の話

SDL160221

われわれ一族と私と実家の話

とある一族と建築家と村の話

目次



起



承



転



結

鳴り響き  
鳴り響き  
鳴り響き  
鳴り響き

10 展開手法・時間軸

09 建築家の権利

08 コンセプト

07 フェーズ○

06 計算手法

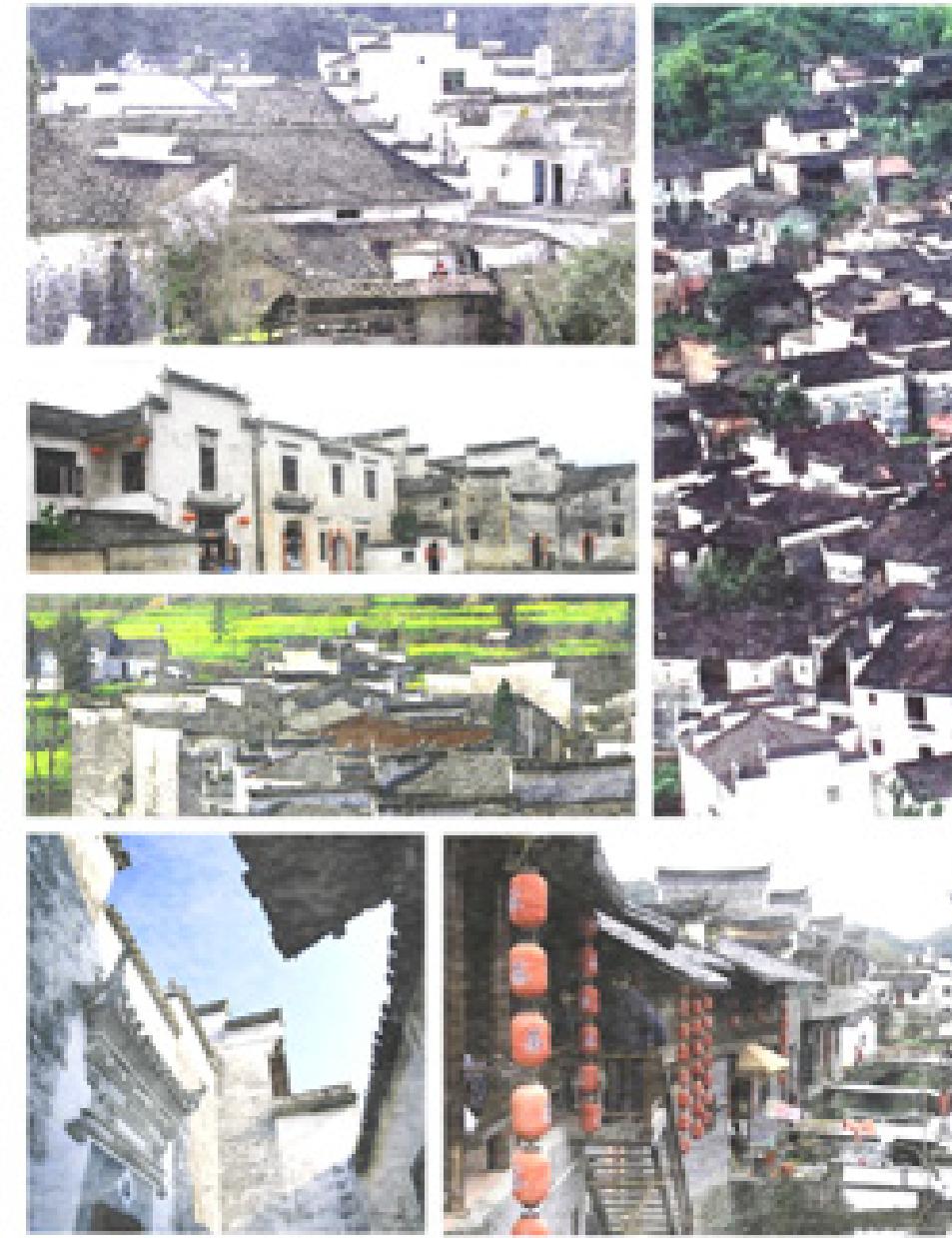
05 フェーズ 命令

04 背景・概念

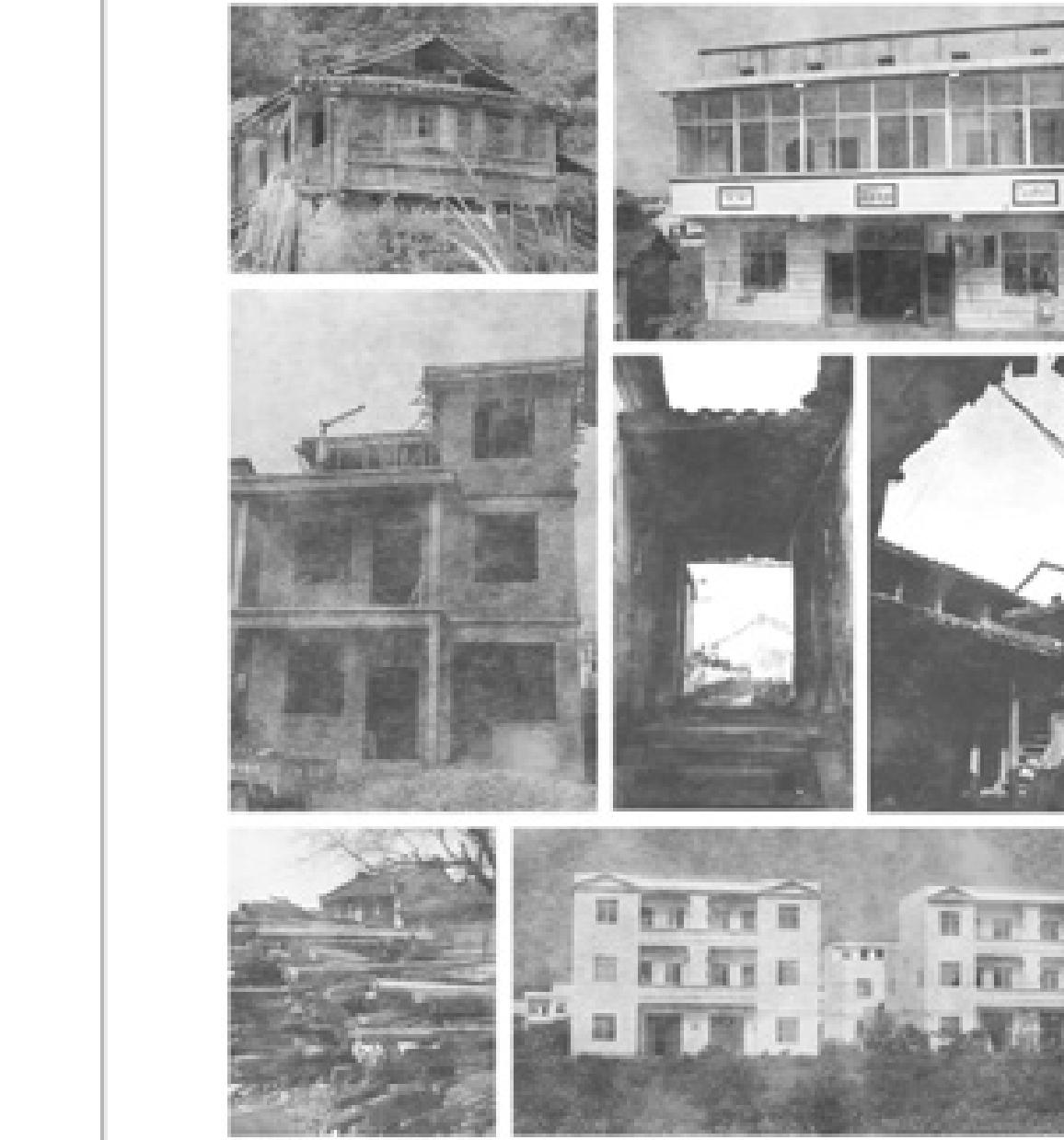
03 フェーズ

02 フェーズ

致我親愛的故鄉 · いとしい いとしい よるさとへ

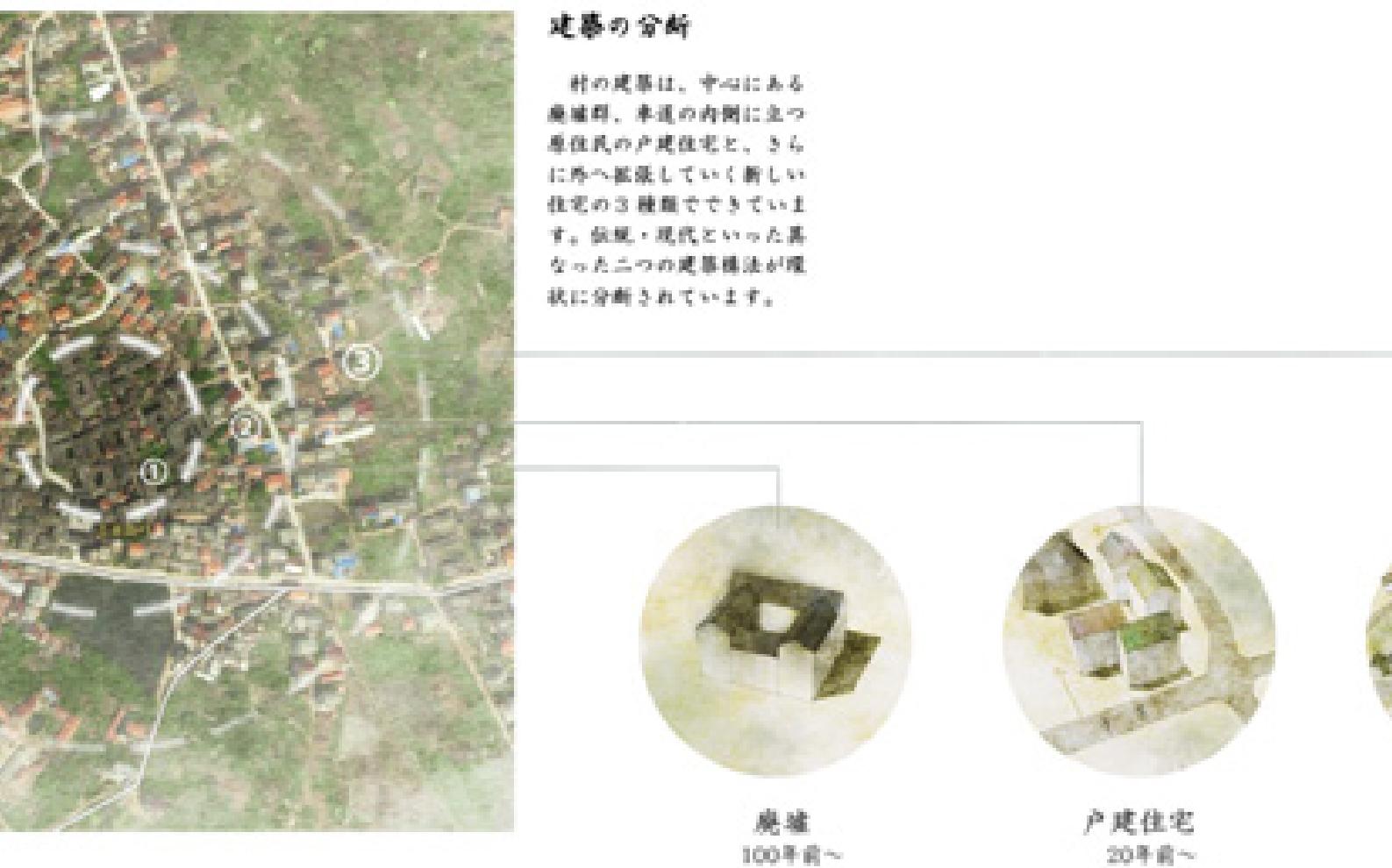


中国・江南地域の伝統的な農村部建築



古い家が取り壊され、新しい建物や住居の建設が進んでいます

## 背景・概要



本制作は、実家の大蔵蔵村をヨコ田間調査し、その結果をもとに村の中心部にある墓地群を解体、再構築し、公共交通として活用するものです。  
大蔵蔵村は現在、「他の村より移り住む外からくる新住者の数も増えています。また村の中では今は、100年前に建てられた古い墓地が約32基あります。そのうち人が住んでいるのは4棟のみで、ほとんどの墓地は化しています。

## 建墓の分析2

この地域の住宅建築は、既に中國伝統的な独特の形式を守りつづけたといえます。

施設の様子から、この村の建

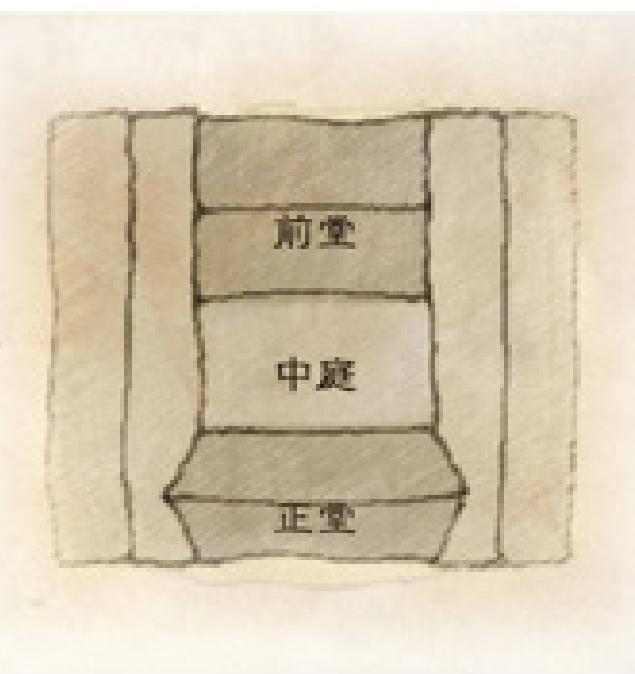
築様式は、外側に開きし、内

側に閉じた形式をもっており、

家庭や心の温らし方を通って

きたのが原因だと考えられ

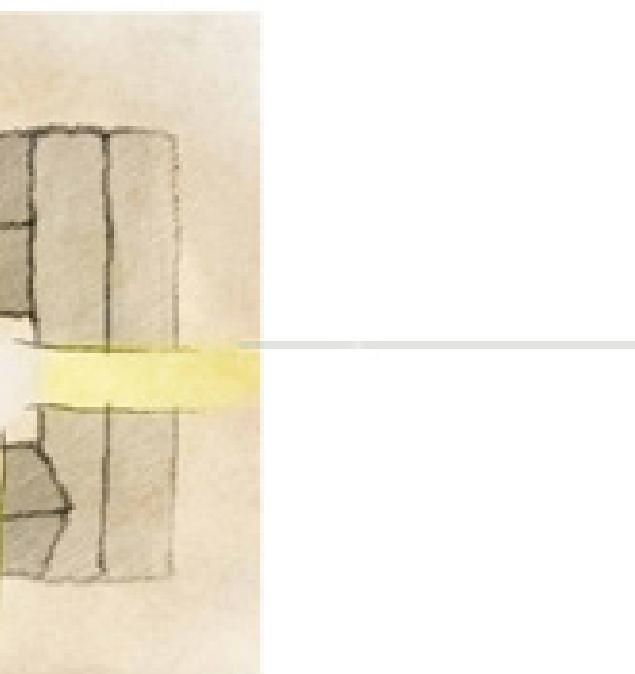
ます。



## 建墓における実際の壁

本計画では、建墓においてこのような機能や活動の制約や孤立性を払拭するために、閉じた内院を破り再構成し、新しい共同体として設計します。

す。



## 住民の間ににおける実際の壁

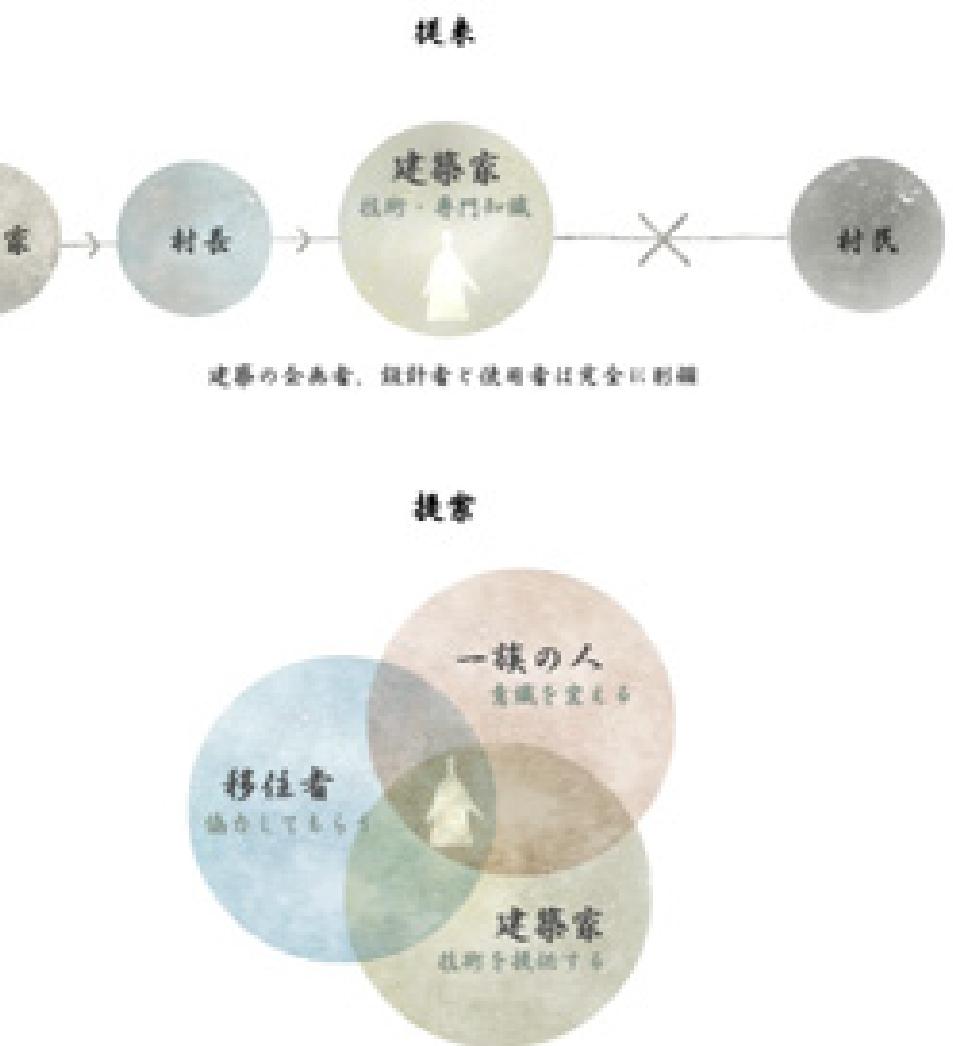
そして、施設を公共空間に取り戻すことにより、新規移住者を村中心に組み、原住民と移住者の間にあ

る形のない壁を取り払い、住民の集落意識を少しずつ変えていきます。

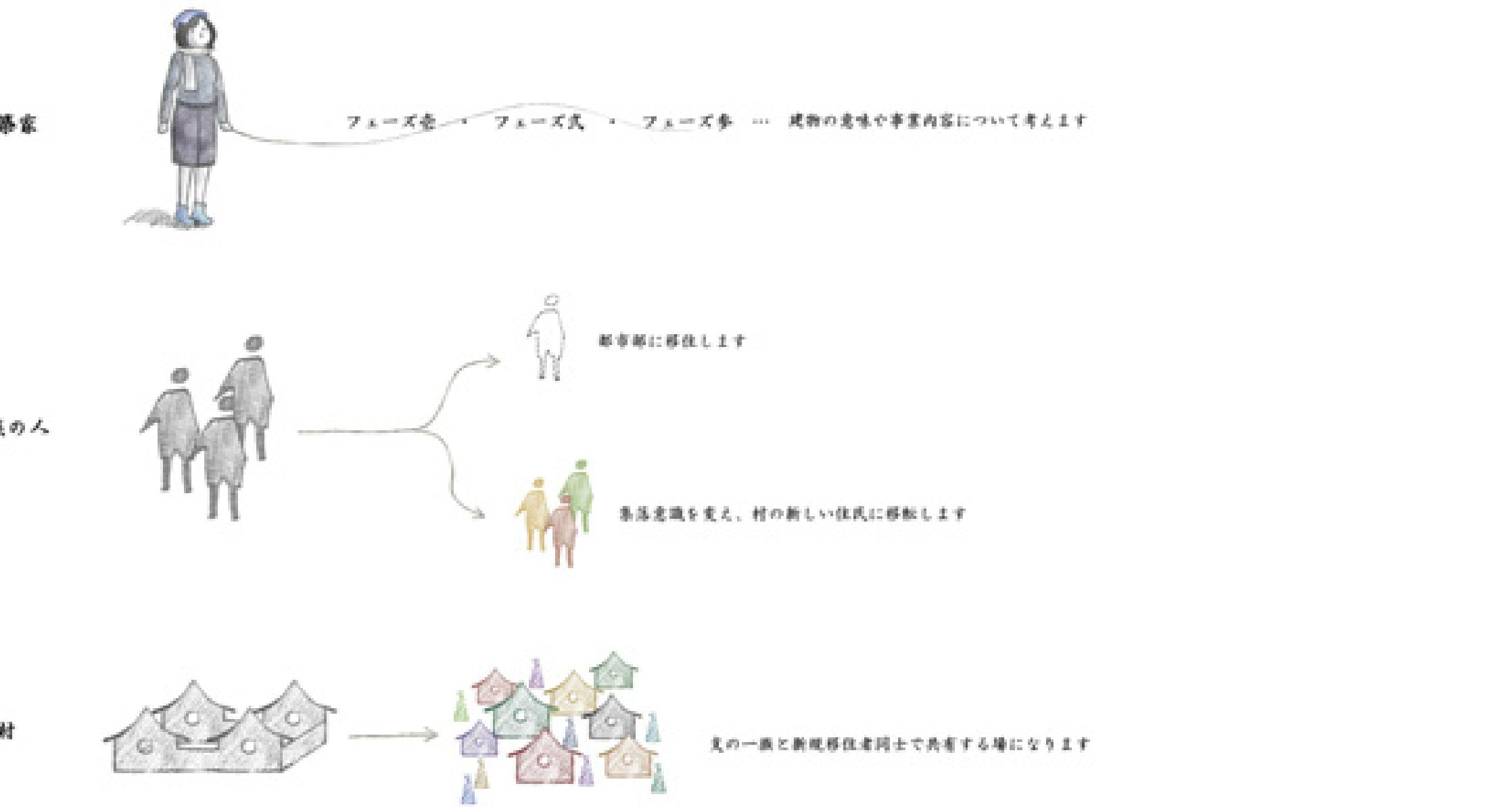
す。

## 建築家の役割

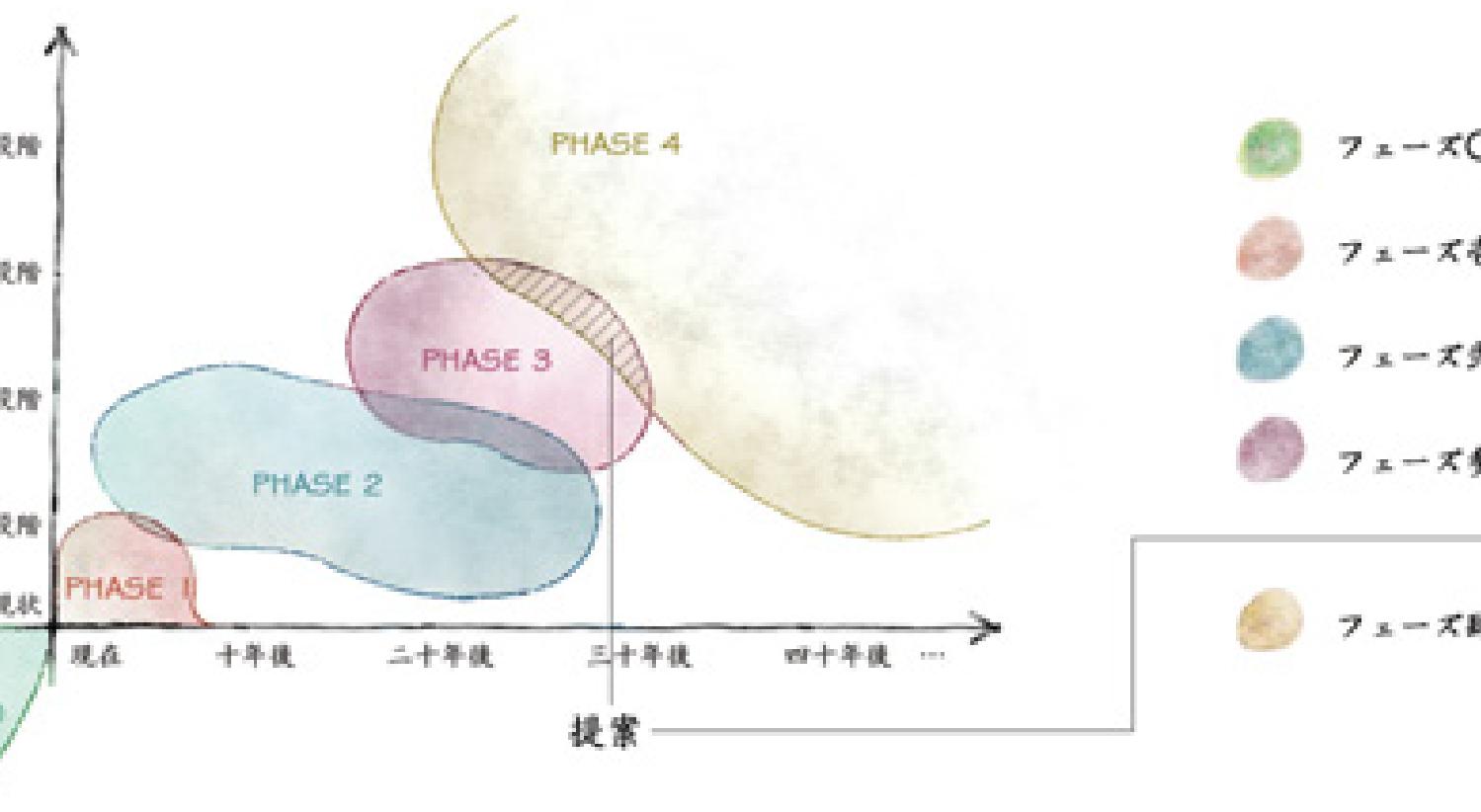
建築の中国の農村社会に上りますと、基本的に農家内閣の決定を行って、村の住民とはどこで問題がありませんでした。本日の設計は、建築や完成の着手を住民同士で共有する事が大事だと考えた時、建築家から顧客に既成と関わる構造と方法を検討します。



より地成と密接な復興事業を計画・立案し、実践する人物として、一派の人・移住者両方の特徴をもつ建築家の存在を想定します。彼女が村に訪れる事から始まる一連の事業を、建築設計として扱います。建築家は、既成住民を巻き込んでこれらの活動を活性化させる、ファシリテーターとしての役割を果たす。



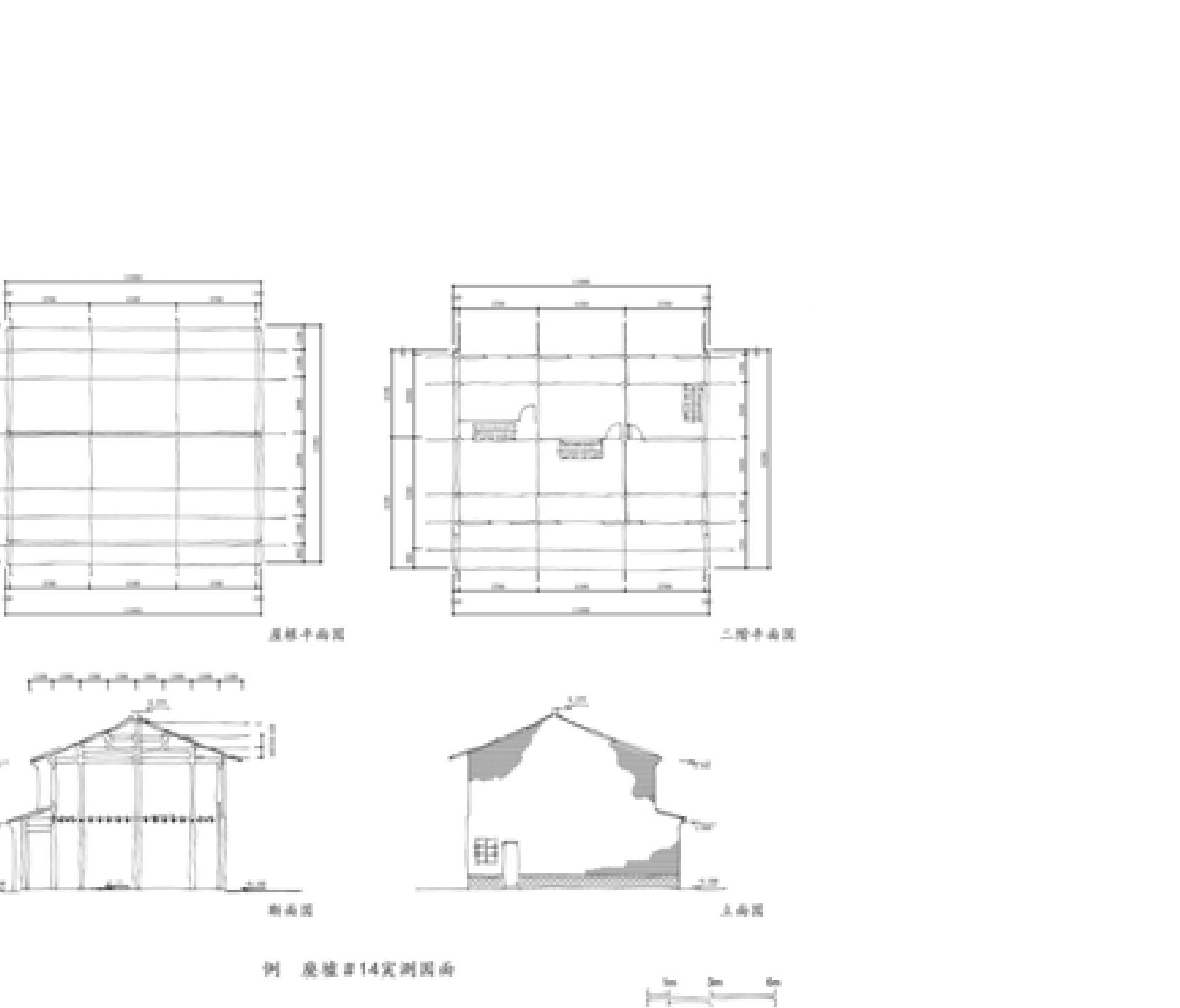
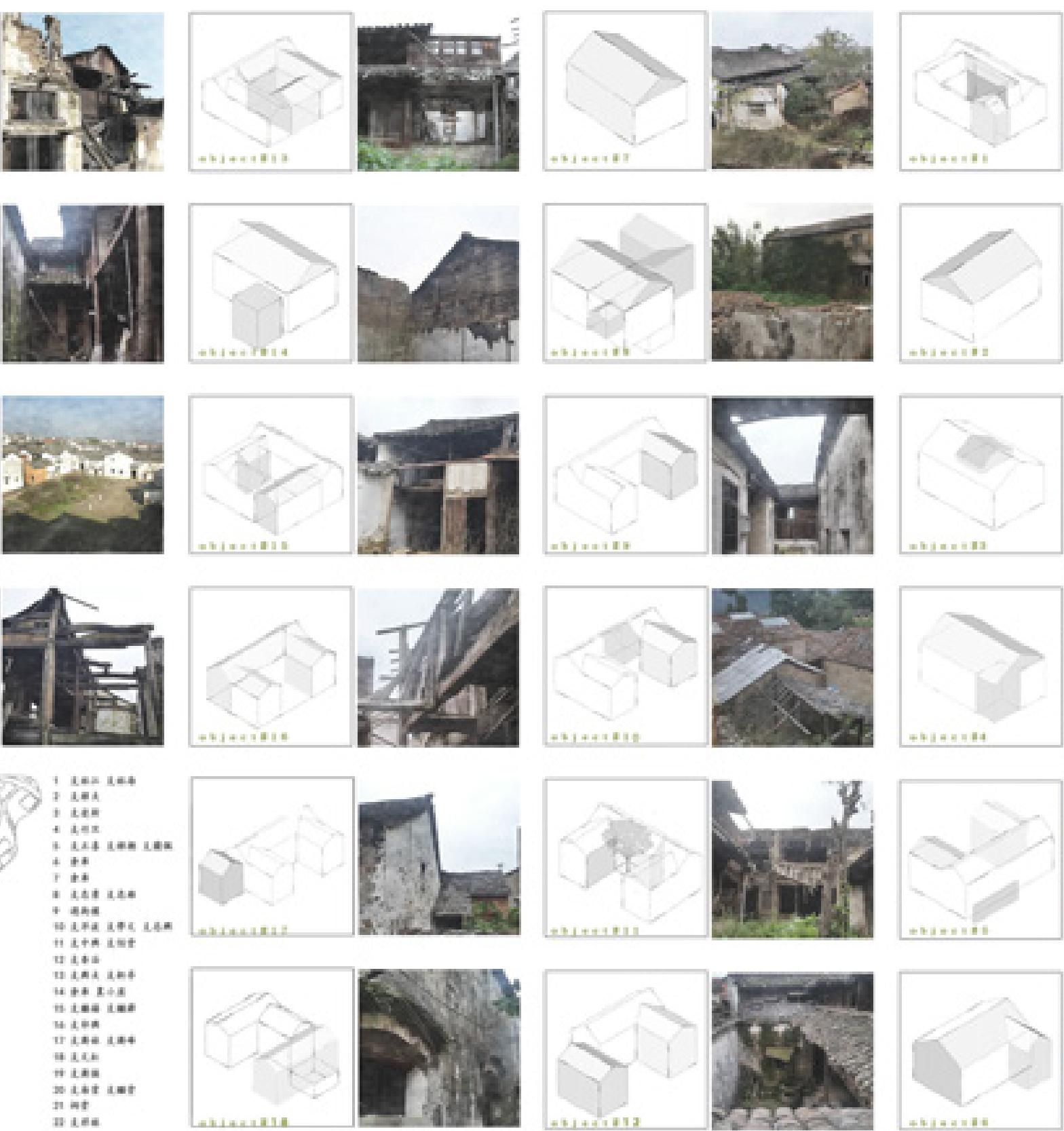
設計は、既存の現状からフェーズを経て段階的に進んでいきます。時間が止まつた廃墟に新たな役割を与えていきます。建築家・一族の人・村の新住民、違う時間軸を持つ三者が触れ合い、空間、経験を共有しあうことで、村の未来は、少しずつ明るい方向に向かいます。この提案には完成はありません。



この提案は、これからの五十年の時間を考え、多くの段階に分けて作っていきます。建築の進捗を時間軸で示します。各段階は各自で進む方向で、長い間にまたがる時系列で進んでいきます。同時に進捗していくことはもちろん、その時に進捗していけることを示すため、本稿では、その時、その段階の作品となります。

## フエーズ

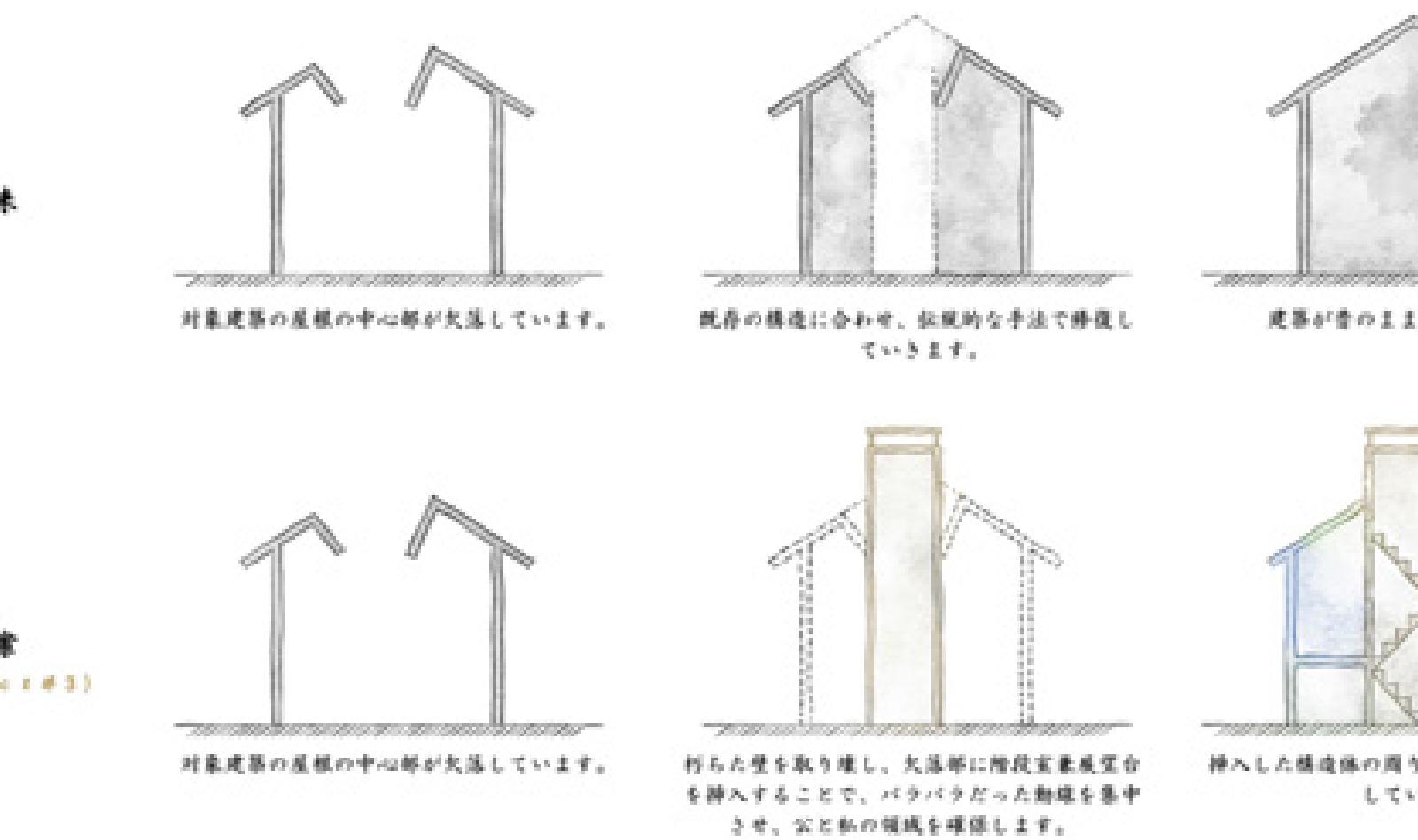
計測を始めた前に事前調査を行いました。現状として、施設群において複数棟を複数の箇所で撮影して、それをダイアグラムで記録し、復元図を作成する手順になります。



保存状態がよく、平面構成が分離できる建物について実測を行いました。実測のデータのもとに作成した復元図の例を示す図面です。

## 設計手法

本設計は、既存の施設に対して復元作業を行うのと異なり、施設の解体が実施し、実施したことによって、既存の施設を再構築することによって新たな色彩を導入します。また、既存の記憶を残せる化石ではなく、既存の「施設」と新規導入する施設との間で、既存を尊重する複数の関係性を構築します。



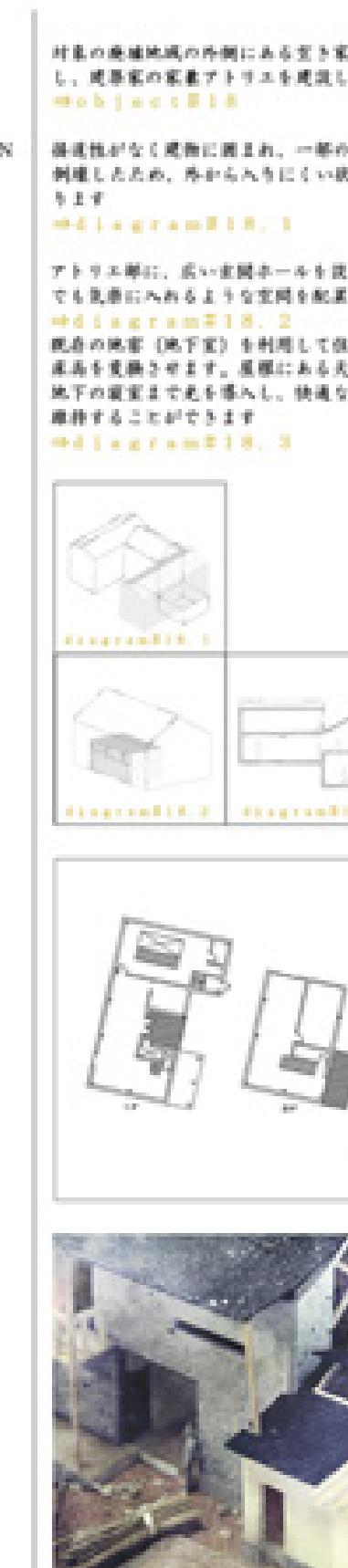
根本  
(アーチitect studio)

提案  
(アーチitect studio)



## フエーズ壙

貴重な現存でもある壙墓に住み続ける原住民の実態  
に対する考え方、本計画の一環の住民の住居を中心とした  
て公共性を持たず、生き残った壁を用きに活用します。



CONSTRUCTION

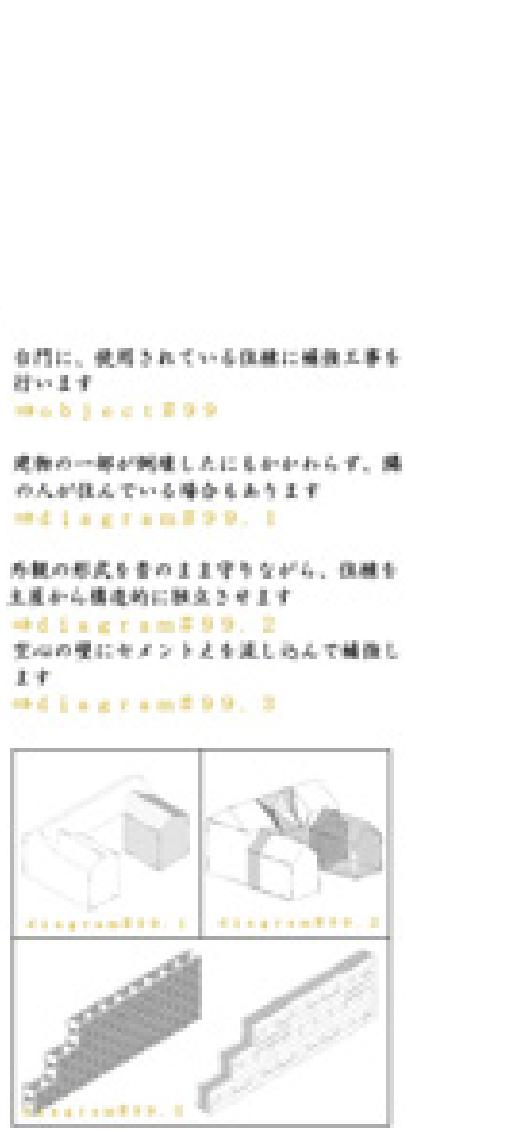
CURRENT SITUATION

APPROACH

DIAGRAM

PLANS

PHOTO



CONSTRUCTION

CURRENT SITUATION

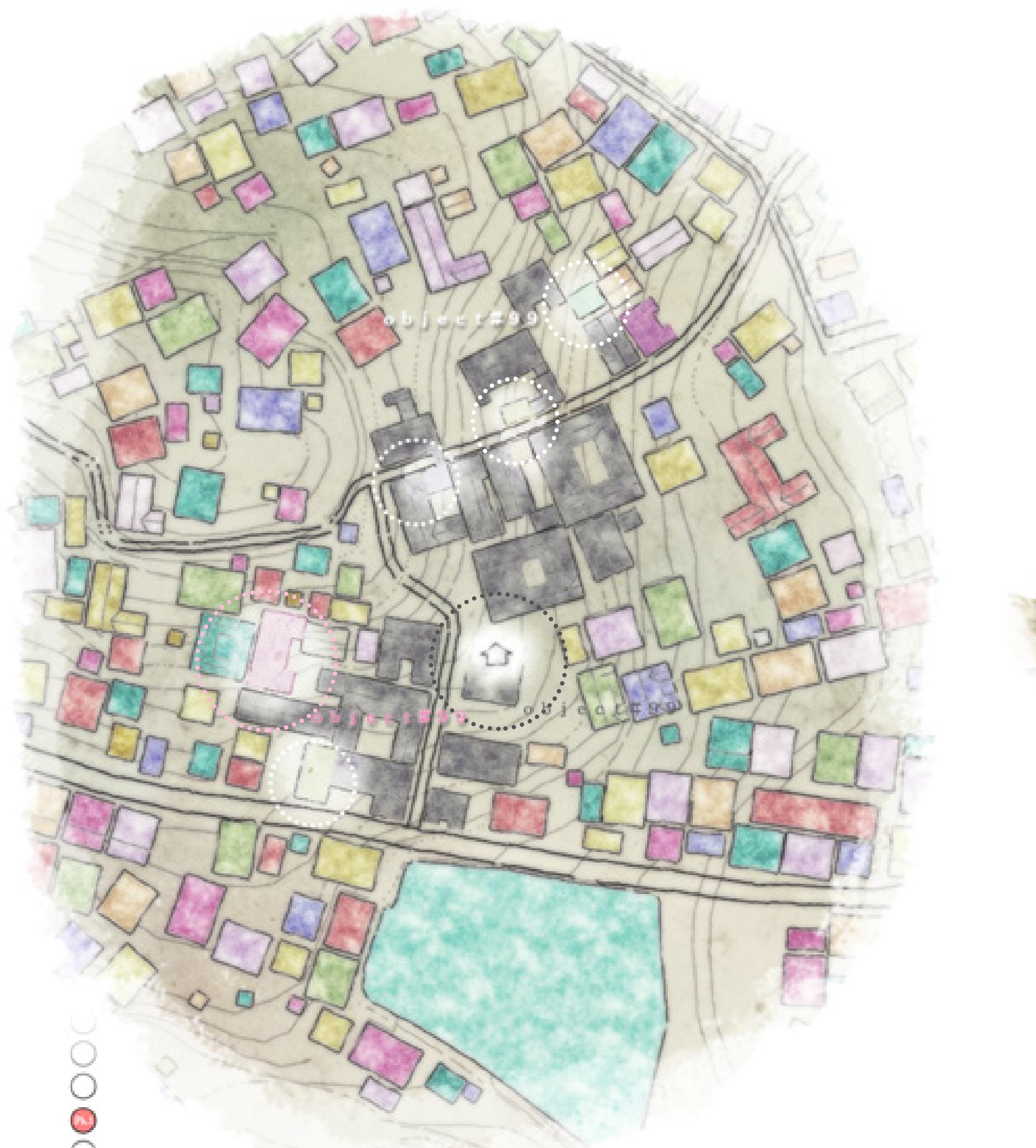
APPROACH

DIAGRAM



CONSTRUCTION

既存している骨壙がすでに開墾されたため、  
削り跡としての既成の地形を活用します  
【図面】





## フェーズ参

核心となる施設の配置計画が実現した後、各施設の配置を決める。

次に、既存の施設は公共施設等の配置を

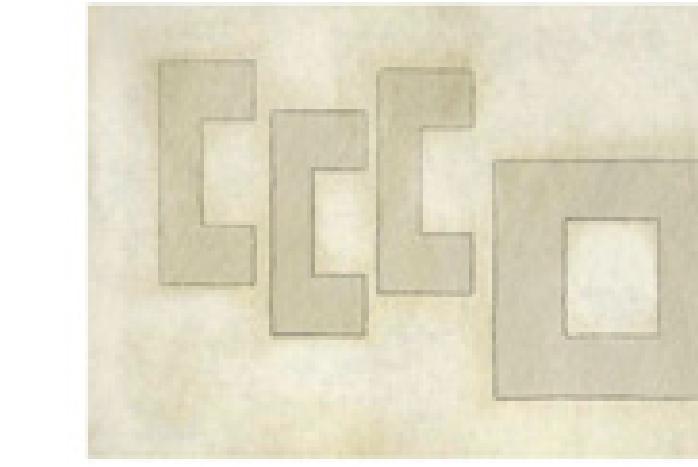
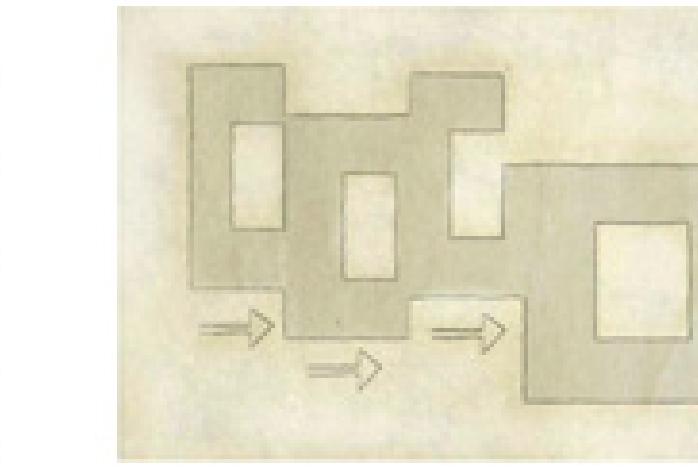
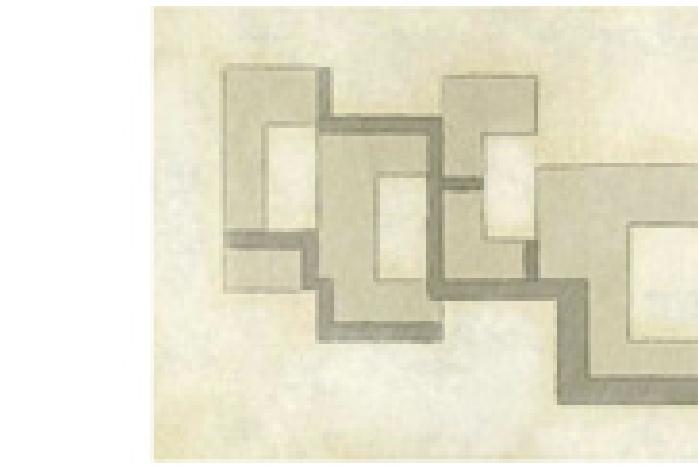
既存施設を残すため、人や車の

移動を考慮して配置します。

次に、既存の施設は公共施設等の配置を  
既存施設を残すため、人や車の  
移動を考慮して配置します。

次に、既存の施設は公共施設等の配置を  
既存施設を残すため、人や車の  
移動を考慮して配置します。

次に、既存の施設は公共施設等の配置を  
既存施設を残すため、人や車の  
移動を考慮して配置します。





1号平面图 1:1750



2号平面图 1:1750

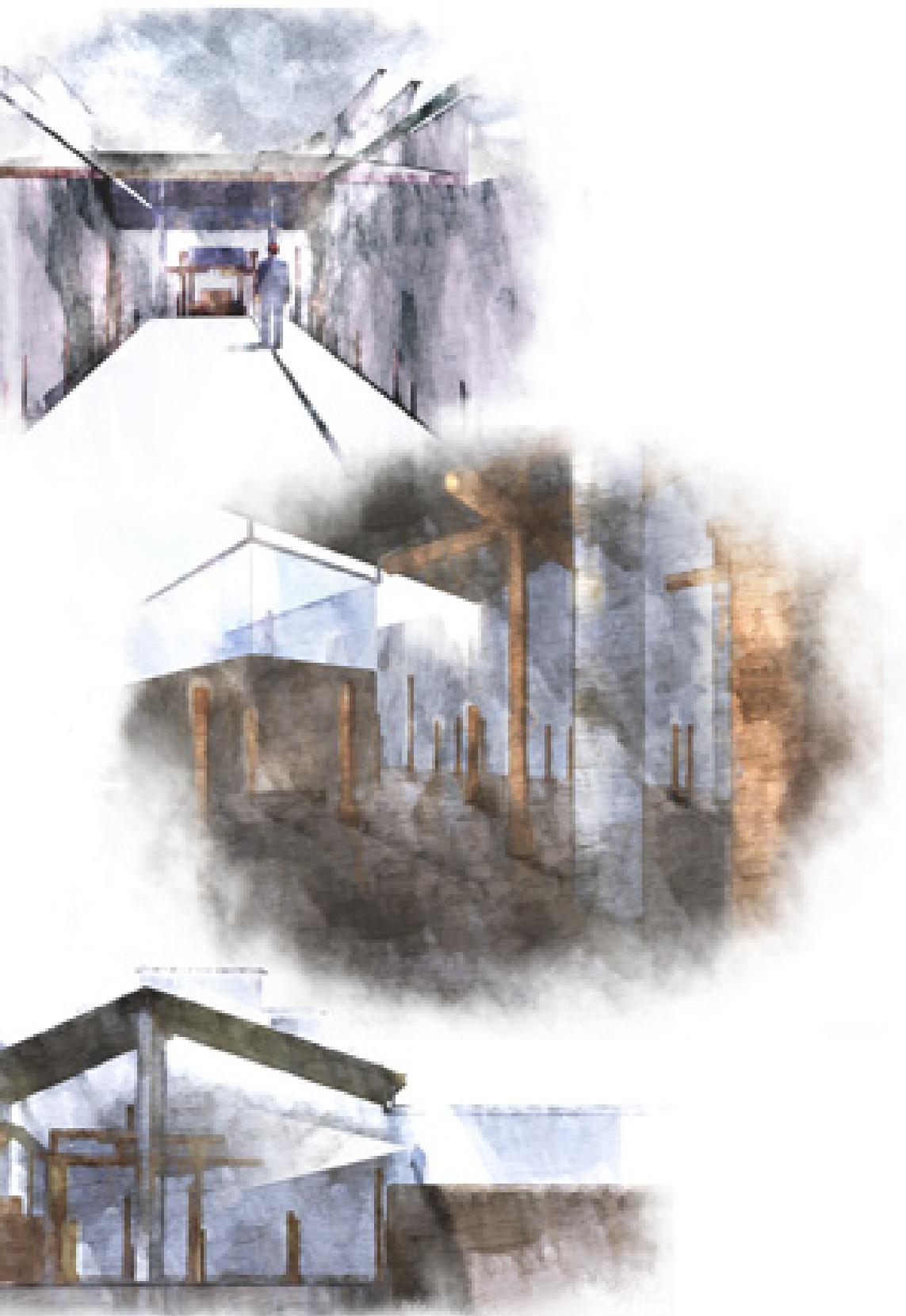
ab j acc 1#01 沿街店铺及停车场  
 ab j acc 1#02 停车场  
 ab j acc 1#03 路  
 ab j acc 1#04 街道绿化带及花坛  
 ab j acc 1#05 中央景观轴  
 ab j acc 1#06 小河一水  
 ab j acc 1#07 街道小花园  
 ab j acc 1#08 道路铺装  
 ab j acc 1#09 围墙  
 ab j acc 1#10 行道树及花坛  
 ab j acc 1#11 街道休息座椅  
 ab j acc 1#12 街道休息座椅+自行车  
 ab j acc 1#13 行道伞  
 ab j acc 1#14 行人通道  
 ab j acc 1#15 围墙  
 ab j acc 1#16 路沿  
 ab j acc 1#17 垃圾箱  
 ab j acc 1#18 灰土堆  
 ab j acc 1#19 砖块  
 ab j acc 1#20 行道座椅及花坛  
 ab j acc 1#21 行道座椅  
 ab j acc 1#22 基座



模型照片

## フェーズ肆

ここはそのままに計画を実行した建築家自身の人生を振り返ります。そして最後の仕事として材の下りでの大きな開口部を閉じ、永遠の萬葉の風景を復元し、これまでここで「風の街」のための橋り道を作ります。



### CONSTRUCTION

この建物先にある、倒壊した祠堂の外壁を復元し、内部空間は各種祭りします。  
→ diagram #2.1

### CURRENT SITUATION

建物の一層が倒壊したにもかかわらず、他の人が住んでいる場合もあります。  
→ diagram #2.1. 1

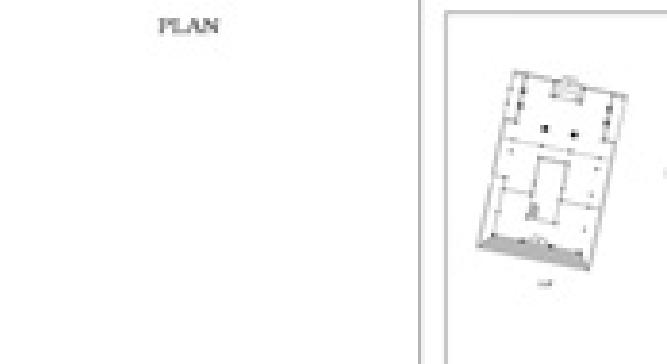
### APPROACH

祠堂の本殿は50年前に倒壊し、現在は常に倒されると仮説の仮説だけが残っています。  
→ diagram #2.1. 2

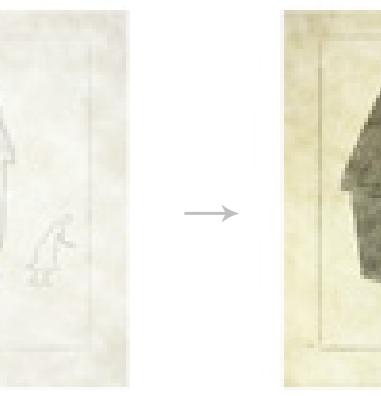
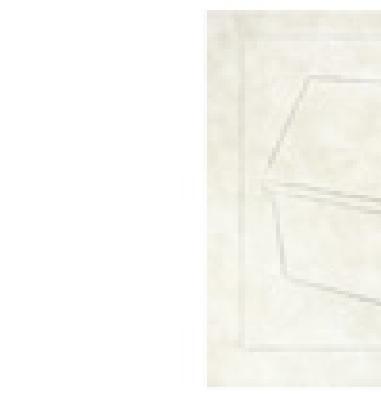
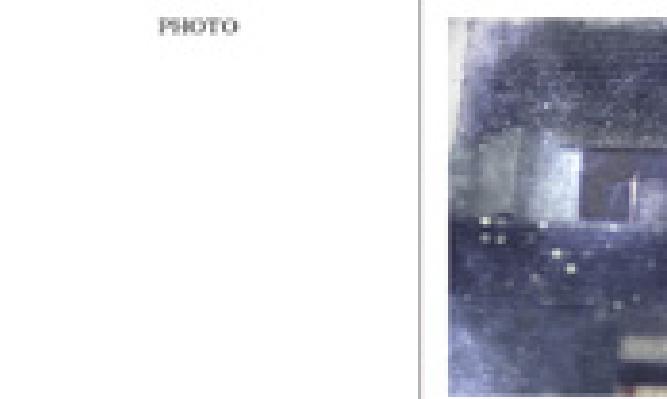
### DIAGRAM



### PLAN



### PHOTO



フェーズ七で改修した住戸に住んでいた人たちが亡くなり、その住戸は一族の人の生きていった話を含し、化石として残ります。そして、化石と化石を壁で接続し、かつて多くの村人に利用されていたメインの道の両側の風景を復元します。



横

昔の村の入り口と祠堂を踏んだ道。一般の誰かの記憶に残る「村のイメージ」を意図的に形成するために、全体計画の方針通り、この道の両側の祠堂を当時のまま復元します。それが村最後の「変わらない部分」としてあることが、離れて暮らす一族と村で暮らす一族を繋ぐ記念碑と言

横

昔の村の入り口と祠堂を踏んだ道。一般の誰かの記憶に残る「村のイメージ」を意図的に形成するために、全体計画の方針通り、この道の両側の祠堂を当時のまま復元します。それが村最後の「変わらない部分」としてあることが、離れて暮らす一族と村で暮らす一族を繋ぐ記念碑と言

